

各事業所へのお問合せは
〒404-0042
山梨県甲州市塩山上於曾1372

☆居宅介護支援センター
Tel. 0553-33-8102

☆デイサービスセンター
Tel. 0553-33-8101

☆訪問入浴サービス
Tel. 0553-33-8101

☆ヘルパーステーション
Tel. 0553-33-8103

☆訪問看護ステーション
Tel. 0553-33-8103
・サテライト山梨厚生
Tel.0553-22-8806

ハートフル塩山広報委員会

〒404-0042
山梨県甲州市塩山上於曾1372
電話 0553 (33) 8101
Fax 0553 (33) 8100
Email jimmu@heartfull-e.jp

広報委員
岩波 充宏・雨宮 立彦
相澤 祐美

編集後記

今年の冬は、寒さが厳しかったですね。体調を崩してしまったと言う人も多かったかもしれませんね。皆さまは、春のおとずれを何で感じますか？風の爽やかさ、日差しのやわらかさですか？それとも草花ですか？草花と言えば、山のすそ野の湿地帯に生息する「ザゼン草」。お坊さんが座禅をしている姿に似ている所からその名が付けられたようです。

3月中旬から4月初めくらいまで見られます。

生息地域は、甲州市塩山平沢地区です。話のタネに一度、見に行ってはいかがでしょう？



雨宮 立彦



な 職員紹介

たむら めぐみ

田村 恵 所属:デイサービスセンター

デイサービスセンターに勤務しています田村恵です。

ハートフル塩山で働き始めて1年半が経とうとしています。

介護職として働くことには、数年のブランクがあり、色々迷いや不安がありましたが、先輩方のご指導やご利用者様の笑顔に支えられて頑張ることができました。

これからもどうぞよろしくお願い致します。



てかわ ちか

天川 千佳 所属:デイサービスセンター

ハートフル塩山に勤務させていただき1年半となります。

それまでは保育士として長年働いていて、久しぶりに介護のお仕事をさせていただくことになりました。

ご利用者の皆さまと毎日楽しく過ごさせていただくことが何より私のパワーとなっています。

まだまだ至らないことが多いですが、利用者様1人1人に寄り添った介護を今後も心がけていきたいと思っております。



おおすぎ まき

大杉 麻記 所属:デイサービスセンター

私がハートフル塩山に入ったのは、約一年前の平成27年11月です。子供を出産するまで受付事務の仕事に長く携っていました。デイサービスでは、人生の大先輩に囲まれたたくさんの刺激を受けながら勉強の毎日です。

福祉の世界に飛び込んだばかりの新米ですが、感謝を忘れずハートフル塩山を選んで良かったと思っています。



ご意見、自主投稿をお待ちしています。
次号は平成29年夏ごろの発行の予定です。

ホームページもご覧下さい。
<http://www.kosei.jp/heartfull/>

ハートフル塩山広報委員会

は〜とふる応援団



ハートフル職員集合♪



新しい試みを

第19号の広報誌は、ハートフル塩山の屋上で全員集合写真を撮りました。新年度を迎えるにあたり、爽やかな風が吹いていますが笑顔で撮りました。

今回の広報誌は、初めて6面の紙面となり、読み応えのある記事作成となりました。デイサービスでの災害対策、安全運転に対する取り組みを取材しました。そのほかにも外出レクリエーションや節分などの記事もあります。

目次:

ハートフル塩山職員集合	1
ハートフル塩山に鬼が来た2	
外出レクリエーション	2
車両と安全運転研修	3
ハートフル塩山成果報告会	4
寿司イベント開催	4
防災頭巾出来上がる	5
ホットな職員紹介	6
編集後記	6

長かった冬の時期からやっと穏やかな春が感じられるようになりました。自然を感じ、丸ごとの意味をこめて大きく深呼吸したいものです。

反面、花粉症に悩む人はつらい時期ですね。これには、対策を講じていかなければなりません。皆様は、いかがでしょうか？医療の進歩と病原体の進化は追いついていないようです。本来人には自然回復というものがあるのですが、病気にかかる前に個人衛生と環境への対策を講ずる必要が大事になります。

「心配は万病のもと・喜びは万病の薬」という言葉があります。どんなときも喜ぶことは笑顔であり、この現象を誰も悪く言う人はなく、不愉快になる人は、いません。病気が近づくことは、出来ません。これは一番いい薬であると信じています。

私たち職員は、お世話になっている皆さま方の、喜びにつながるようなお仕事をしたいと考えています。更に地域の皆さまにも喜んでいただけるように工夫と改善に努力していきます。どうぞ今後とも変わらぬ御指導をよろしくお願いします。



ハートフル塩山に鬼が来た



平成29年の2月3日の節分の日に赤鬼・青鬼・緑の鬼がやってきました。

鬼は毎年、近所の菅田神社から来てくださっています。鬼は、ハートフル塩山のデイサービス(萩・藤)や訪問看護や訪問介護、居宅介護の部屋にやってきました。ご利用者様が豆を持って「鬼は外、福は内」と投げて鬼を退治してくれました。



最後は、古屋センター長と上野事務長と鬼のみんなではいポーズって写真を撮りました。



外出レクリエーションに行ってきました

平成29年4月3日から、春の外出レクリエーションが始まりました。

一週目は、お弁当をもって小瀬スポーツ公園へ。二週目は、勝沼ぶどう郷駅の甚六桜公園へ行きました。今年は、桜の開花が遅く初日の小瀬では、三分咲きほどでしたがいつもと違った雰囲気の中で食べるお弁当は、最高でした。食後は、リハビリテーションも兼ねて公園内を散歩をしました。

満開の桜は、見る事が出来なかったけれど、ご利用者様のとびきりの笑顔を沢山見ることが出来ました。



防災頭巾出来上がる



東日本大震災から6年を経過し繰り返し災害への備えが求められています。ハートフル塩山では、震災で得た教訓を活かし、災害への備えに取り組んでまいりました。ご利用者様の身を守るための手立てとして、防災頭巾の作成をご利用者様にも関わって頂く計画を立て、デイサービスご利用時にご理解ご協力を頂きこのほど70個手作りの防災頭巾が仕上がりました。

株式会社ワタキューセイモア様より材料としてしっかりした厚手のタオルを提供していただき、扱いには難しさがありましたが、ひと針、ひと針心を込め、ご利用者様・職員が丁寧に仕上げて頂きました。

有事の際には、身を守ることが出来るよう役立てさせていただきたいと思っております。

この紙面をもって報告とさせていただきます。職員一同ご協力に感謝しお礼を申し上げます。ありがとうございました。



知っていますか？ 避難地と避難場所の違い

「避難地」とは

- ・主に警戒宣言が発令された時、津波、がけ崩れの危険から逃れる為の事前避難先。
- ・警戒宣言時に開設され、屋外があてられません。体育館などの屋内は、使用できません。

「避難場所」とは

- ・被災後に自宅を失った人、自宅に戻れない人が一時的に共同生活を送る場所。
- ・災害発生後に開設され、建物の屋内があてられます。



災害時にどこに避難するのが良いのか日常生活の中でしっかり把握しておくことで安全につながると思います。自宅から最寄の「避難地」・「避難場所」がどこなのか確認を家族とすることが必要です。

ハートフル塩山事業所内成果報告会実施！



平成29年3月3日に、各事業所の取り組みからそれぞれ1事例をまとめて発表しあう成果報告会を行いました。

発表された内容は、認知症を患った方の症状に合わせて平穏に過ごせるための個別の関わりであったり、誰もが持つ食べたいという願いに応えるための地道な努力であったり、改めて現場の介護に対する熱い思いを知る機会となりました。

ハートフル塩山では、デイサービスをはじめ、訪問看護・訪問介護・居宅介護支援・訪問入浴といったいくつもの介護サービスを提供しています。

働く私たち自身がそれぞれのサービスの強みや頑張りを理解して協力し合いながら、地域の皆さまの信頼に応えられるような事業所に成長していきたいと思っています。



お寿司屋さんがやってきた



平成29年3月24日・25日の2日間、デイサービスで毎年恒例となっている寿司イベントを行いました。

天井には垂れ幕、そして寿司ネタケースを設置しその前で職人さんが握ってくれて、まるでお寿司屋さんで食べているような雰囲気作りに皆さん大喜び！！「まぐろ、おかわり」と大きな声は、男性ご利用者様。「たまご、おかわりしても良いですか？」とちょっと遠慮気味の女性ご利用者様。

皆さま満面の笑みで、とても楽しそうに食べていただきました。



～ 送迎車輛 ～ 大型・中型・小型車輛で安全安心



大型車輛には、ご利用者様を最大7名まで乗車可能で、車内での体調見守り、コミュニケーション等を行うため、従業員が添乗しています。又、せまい道路などでは、中型や小型車輛を配車し、ご利用者様やご家族様に安心していただける送迎に心掛けています。



大型車輛には、リフト付、小型車輛には、スロープ付の機能を備えてあり、車イスのご利用者様も楽に乗降が出来、安心・安全なサービスとなっています。

リフト付大型車輛



スロープ付小型車輛



～ 安全運転研修会～

平成28年12月8日(木)
日本自動車連盟(JAF)の講師をお招きして安全運転研修会が行われました。特に見通しの悪い路地や夕暮れどきの危険性等を事例をまじえ、講習に従業員もうなづきながら真剣に聞いていました。安全運転で最も重要な事は危険を予知、予測することで公私共々安全運転に心がけようと心に誓う研修でした。

